

監督失格

庵野秀明
プロデュース

林由美香
出演

平野勝之
監督

未だに乗り気になれない 何故なのか？

「僕は何故、この映画を作ろうとしたのか」

2010年02月、甘木さんから電話があった。

「平野さんの新作映画を共同で作りませんか」という話だった。

新劇場版エヴァの制作や社長業等で時間的、精神的な余裕はなく

「これは引き受けると大変だなあ」と思いつつも「やりますよ」と即答していた。

聞いたタイトルが直感的に良かったのと、なにより、平野さんに恩返しをしたかったからだ。

1997年05月、甘木さんの勧めで『由美香』を観た。

旧劇場版エヴァの制作中で心がボロボロに疲弊しきっていた時だった。

アニメーションでは表現できない「映像の力」がそこにあった。

そして、映像に切り取られ、紡がれていた由美香さんと平野さん自身の姿に

「この人たちには、とてもかなわない・・・」と思った。

そのことで、大げさな言葉を使えば「救われた」感じがした。

恩返しとは、その感覚が閉塞しきっていた当時の僕の心を少し解放してくれたからだ。

2010年03月、平野さんと会った。

由美香さんの告別式で声をかけられなかった時以来だった。

呑みながら何を映画にしたいのかを聞いた。その動機も聞いた。

「由美香にケリ付けないと何も次が出来ない。その為にもう一度由美香と向き合う」という気持ちは、

エヴァの呪縛から逃れる為に、またエヴァを作っている僕と似た感じがした。

うなずきながら、平野さんの話を黙々と聞いていた。

そして、その構想案から恩返しなどという想いで作れる映画ではなく、

製作(プロデュース)には相当な「覚悟」が必要な事もわかった。

日本酒を流し込んで「手伝いますよ」と約束した。

ヒト一人の死を真正面から背負ってでも、平野さんには前に進んで欲しかったからだ。

2010年10月、3回目の編集ラッシュでようやく平野監督作品に出会えた。

そのラストシーンでは、ひたすら泣いた。

正気ではとても向き合えないような編集作業を経て、

ついに終極に至った平野さんの「想い」を考えると、涙を流すしか出来なかったからだ。

その時、この映画を製作して「本当に良かった」と思った。

2011年03月、『監督失格』の完成零号試写が行われた。

これで平野さんが、次回作に進める事を願う。

そして今はただ、本作品を観て欲しいと思う。

この作品を僕の言葉で伝える事は、難しいからだ。

改めて、由美香ママと弟さんに感謝いたします。

ありがとうございました。

プロデューサー 庵野秀明

(2011年03月09日 晴れの日に カラーにて)

2011/09/03

TOHOシネマズ 六本木ヒルズにて独占先行ロードショー

配給/東宝映像事業部 製作/カラー・コイノポリピクチャーズ

COLOR | 1.85:1 | 111min. | STEREO

k-shikkaku.com

TOHO
Visual Entertainment

©「監督失格」製作委員会